

中国語の介詞“向”と日本語の複合格助詞

「～に向かって」, 「～に向けて」

裴 麗

広島大学大学院 国際協力研究科 教育文化専攻 博士課程後期

広島県東広島市鏡山1-5-1

E-mail: sarnerily@163.com

0. はじめに

中国語の介詞“向”にも日本語の複合格助詞「～に向かって」, 「～に向けて」にも同じ漢字「向」が使われる。そのため、中国語を母語とする日本語学習者には「～に向かって」, 「～に向けて」に用いられている漢字の「向」が自国語表現の中に見られる“向”との同一性によって強く印象付けられている。しかし、“向”と「～に向かって」, 「～に向けて」との間には共通した用法もあるが、そのずれは大きい。したがって、中国語母国話者には、「～に向かって」, 「～に向けて」の習得が難しく、「上司に向かってごまをする」(中国語表現：向上司献媚)、「李さんに向けて勉強する」(中国語表現：向小李学习)などのような誤用例が少なからず見られる。

一体、中国語の介詞“向”と日本語の「～に向かって」, 「～に向けて」とは、どのような対応関係があるのでしょうか。この点については、今のところまだ明確に説明されていない。

本稿の目的は、介詞“向”と複合格助詞「～に向かって」, 「～に向けて」との対応関係を明らかにすることである。

1. 先行研究とその問題点

介詞“向”についての研究はたくさんあり、代表的なものとしては、呂叔湘(1980)、北大中文系55, 57級语言班(1982)、傅雨贤等(1997)、侯学超(1998)、刘月华

等(2001)などがある。これらの先行研究における“向”の用法は①方向を導く用法と②対象を導く用法に二分されている。しかし、下の例に示すように、“向”にはこの二種類の用法のどちらにも属さない使い方もある。

- (1) a 站长领许程向西走去。(1) (駅長は許程をつれて西に向かって歩いていた.)
 b 我现正向这个目标努力。(私はこの目標に向かって頑張っている.)
 c 同时,伟大的工程——青藏铁路正在向拉萨延伸。(それとともに、偉大な工事—青蔵鉄道はラサに向かって伸びている.)

(1a)における“向”は移動の方向を表わすが、(1b)における“向”は動作の方向、対象のいずれとも言えないであろう。一見して(1c)における“向”は移動の方向であると思われるかもしれないが、よく考えると、“青蔵铁路”の位置は何も変化していない。この場合、“向”の用法は厳密な意味では、動作の方向とも言えないし、対象とも言えない。“向”をさらに細かく分類し、各用法における更なる考察が必要である。

「～に向かって」, 「～に向けて」については、井上優(1988)、盧涛(1995, 1996)、グループ・ジャマシイ(1998)、小高愛(2000)、工藤嘉名子(2005)、泉原省二(2007)、馬小兵(2009)などの先行研究が見られる。代表的なものとして、グループ・ジャマシイ(1998)、小高愛(2000)、工藤嘉名子(2005)、泉原省二(2007)をあげておこう。

表1 先行文献における「～に向かって」の記述

グループ・ジャマシイ(1998)	1. 方向(移動/変化)	2. 対面 N=もの・人	3. 相手 N=人
小高愛(2000)	1. 移動の方向 3. たちふるまいの向けられる方向	2. 言語活動の向けられる方向 4. 空間的な関係	
工藤嘉名子(2005)	1. 移動の方向 3. 1人/もの/場所	2. 変化の方向 3. 2目標	3. 行為の方向 4. 空間的配置の方向

表II 先行文献における「～に向けて」の記述

グループ・ジャマシイ (1998)	1. 方向 N=場所, 方位 3. 相手・対象 N=人, 組織	2. 目的地 N=場所 4. 目標 N=できごと
工藤嘉名子 (2005)	1. 移動の方向	2. 行為の方向
泉原省二 (2007)	「組織・集団・人間」を相手にする Aを「方向/目的地」にしたB「位置/移動」 ⁽²⁾ Aを「努力目標」としたB「行為/活動」	

「～に向かって」, 「～に向けて」のそれぞれに関しては, 先行研究ではかなり詳しく論じられているが, 各文献における用法分類は統一されていない。また, 各用法の内部関連性についても系統的に論じられていない。

介詞“向”と複合格助詞「～に向かって」, 「～に向けて」を取り上げた研究としては, 盧濤 (1996) と張麟声 (2001) があるが, いずれも本稿との研究目的が違う。盧濤 (1996) は, 方向動詞文法化の視点から“向”と「～に向かって」, 「～に向けて」の文法化のプロセスを検討したものである。動詞“向”がどのようなプロセスを経て介詞になったのか, また, 動詞「向かう」, 「向ける」がどのようなプロセスを経て「にむかって」, 「にむけて」という形で方向指示の役割を果たすようになったのかを中心に論じているように, 中国語と日本語における方向動詞の文法化のプロセスを分析している。一方, 張麟声 (2001) は誤用分析の視点から, “向”と「～に向かって」との対応関係を論じたものである。間違いやすいところを指摘し分類しているが, これはボトムアップという形のものだと思われる。本稿では, ボトムアップではなく, トップダウンの方法を取る。つまり, 間違いやすいところだけでなく, “向”と「～に向かって」, 「～に向けて」の用法の違いを包括的に考察することが本稿の目的である。そのために, “向”も「～に向かって」, 「～に向けて」も詳しく分類する必要がある。

工藤嘉名子 (2005) は「移動の方向」, 「行為の方向」, 「行為の目標」, 「変化の方向」, 「空間的配置の方向」の五つの用法から日本語の「～に向かって」, 「～に向けて」を検討しているが, 中国語の“向”の用法は前述のように, 方向と対象の二種類に分けられる。つまり, 日本語の「～に向かって」, 「～に向けて」に対する分類は中国語よりも細かい。

本稿では, 工藤嘉名子 (2005) の日本語に対する分類を基に, 中国語の“向”をも五つの用法に分け, それぞれの用法から介詞“向”と複合格助詞「～に向かって」, 「～に向けて」の意味特徴を分析, 比較したうえで, “向”と「～に向かって」, 「～に向けて」との対応関係をまとめながら「～に向かって」と「～に向けて」の異同点を解明したい。

2. “向”と「～に向かって」, 「～に向けて」の各用法の比較

2.1 移動の方向を表す用法

“向”にも「～に向かって」, 「～に向けて」にも移動の方向を表す用法がある。下の例を見ていこう。

- (2) a 一个满头白发的老人正在向我走来……《人啊, 人》
b 白髪の老人が私に向かって(に向けて)歩いてくる。
- (3) a 液体向脸上飞去。
b 液体は顔に向かって(*に向けて)飛んだ。
- (4) a 站长领许程向西走去。
b 駅長は許程を連れて西に向かって(に向けて)歩いて行った。
- (5) a 在驰向前门车站的路上, 黄梅霜回过头来告诉李槐英……《青春之歌》
b 前門駅に向けて(に向かって)走る道の途中で, 黄梅霜はふり向いて李槐英に説明した。
- (6) a 一见她, 倪吾诚不由得向后退……《活动变人形》
b そこを姉の静珍が腰掛をふりあげて襲いかかると, 倪吾誠もいち早く後へ(*に向かって/*に向けて)引く。

上の例からわかるように, “向”は「～に向かって」, 「～に向けて」に対応する場合もあれば, 対応しない場合もある。移動の方向を示す場合, 中国語では“向”⁽³⁾などの介詞で導く。それに対し, 日本語では普通格助詞「へ」で方向を示す。もちろん上の例と同じように「～に向かって」, 「～に向けて」で示す場合もあるが, 「～に向かって」, 「～に向けて」は無標ではなく, 特別なニュアンスをそれぞれもっている。以下, “向” , 「～に向かって」, 「～に向けて」のそれぞれの意味特徴を探っていく。

(2)~(6)を見てわかるように, “向”と共起する述語はすべて移動動詞であり, “向”は動詞の前か直後かの2種類の位置づけがありうる。いずれの場合にも, “向”は方向性補助動詞(来/去)と共起することが多い。そもそも方向指示が“向”の原型的な機能⁽⁴⁾であるが, この“来/去”により, 方向だけでなく, 移動中のプロセスの場面性も生じる。つまり, “来/去”を加えることによって, “向”文は移動の方向へ進む意味合いが生まれてくる。“向”の意味特徴は以下のように述べることができるであろう。

「向」はある一方向あるいは一方向に拡張した物体（ランドマーク）に対して、トラジェクターが一方の側からもう一方の側へ進むことを表す

このような「向」のイメージ・スキーマは図1で示すことができる。「向」は「+方向性」と「+移動性」の特徴がある。

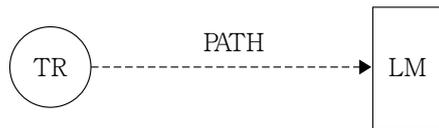


図1 移動の方向を表す「向」のイメージ・スキーマ

図1におけるTRはtrajector（トラジェクター）の略であり、LMはlandmark（ランドマーク）の略である。PATHはTRの移動の経路を示す。

移動の方向を表す用法は「向」の基本的な用法であり、「向」の中心的イメージ・スキーマも図1と同じように示すことができる。

上で述べたように、日本語では、普通格助詞「へ」で方向を示す。もちろん、移動の方向も例外ではなく、普通「へ」で示すが、ときには「～に向かって」や「～に向けて」などで示すこともできる。「～に向かって」と「へ」の区別について、盧濤（1996：104）では、『「にむかって」はそれなりの描写性があり、参与者のいる状態を示すものとして、述語性が残っている。逆に、『へ』は単なる方向をマークし、描写性がない』と述べている。盧濤（1996）の説明からわかるように、単なる方向を表すときには「へ」を用いるが、移動中のプロセスの場面性を表現するときには、描写性のある「～に向かって」を使用するほうがいきいきとする。

「～に向かって」の意味的特徴については、工藤嘉名子（2005：44）は『「点」ではなく時間的、空間的に幅や広がりのある〈方向〉への主体の〈接近〉を表す』と述べている。つまり、

「～に向かって」は、ある一方向あるいは一方向に拡張した物体（ランドマーク）に対して、トラジェクターが一方の側からもう一方の側へとすこしずつつますすぐ進むことを表す

と言えよう。この「～に向かって」の中心的イメージ・スキーマは図2で図示できる。

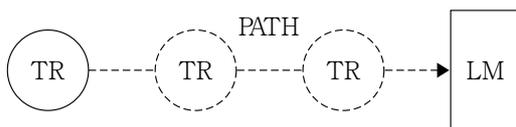


図2 「～に向かって」の中心的イメージ・スキーマ

図2では、TRは時間がたつことにつれ、位置が少しずつ変化することを表す。この場合、TRがLMにだんだん接近する場面性が生じる。

(6)では、「向」で移動の方向を導くが、それに対応する日本語表現は「へ」だけであり、「～に向かって」などを使うことはできない。それは、(6a)には場面性がないからである。つまり、(6a)では、「向」は方向指示の機能のみであり、移動中のプロセスの場面性はない。それに対応する日本語表現も場面性はないはずなので、「～に向かって」は使えないのである。それに対し、(2)～(4)では、「来」、「去」などの方向性補助動詞があるため、「向」文は場面性が出てきて、移動の方向への接近までの意味合いがある。そのため、日本語の訳文では「～に向かって」で移動の方向を示すことができるようになる。

次に、「～に向けて」の意味的特徴を見ていく。工藤嘉名子（2005：44）は「移動軸、時間軸上にく〈目標〉となる『点』を揚げるが、主体の〈接近〉は伴わない。そのく〈目標〉はく〈既定性〉が高い」と述べている。つまり、

「～に向けて」はある既定性の高い目標（ランドマーク）をターゲットに、トラジェクターが何かの行為をすることを表す

と述べられよう。この「～に向けて」の中心的イメージ・スキーマは図3の通りである。



図3 「～に向けて」の中心的イメージ・スキーマ

移動の方向を表す場合、目的地（ランドマーク）は既定性の高い目標として認められ、トラジェクターはその目標をターゲットに移動する。既定性の高い目標であるため、「～に向けて」で提示する移動の方向はほかの何かと対比し、特別に取り立てられるニュアンスがある。

以上の説明から、「～に向けて」は既定性の高い目標を提示するときだけ使用されることがわかる。すなわち、対比や移動の方向を特別に取り立てる必要がない文脈では、「～に向けて」を使えない。したがって、(2b) (4b) (5b) における「～に向けて」の使用は無条件ではなく、移動の方向を特別に取り立てるという前提が必要である。

このように、中国語の「向」に後続する名詞に強調ストレスを置き⁽⁵⁾、この名詞をほかの何かと対比するニュアンスがある文脈では、「向」と「～に向けて」とは対応する。

「～に向けて」と「～に向かって」の相違点について、

盧濤 (1996: 106) では『にむかって』と区別されるのは、元の『向ける』に意図性があるため、『にむけて』も意図性が含まれた出来事の方指示でなければならない」と述べている。実際の例を見れば、確かに盧濤 (1996: 106) の叙述のように、「～に向けて」は意図性を伴っている。(3b) では、「液体」は無生物であるから、意図性がない。そのために、「～に向けて」は使えないのである。逆に、「向」も「～に向かって」も意図性の有無に係わらず、広い範囲で用いることができる。

以上の説明からわかるように、移動中のプロセスの場面性があるとき、「向」は「～に向かって」と対応するが、そうでないとき、両者は対応しない。「向」と「～に向けて」については、移動の方向が特別に取り立てられ、かつ意図性のある文脈では、「向」は「～に向けて」に対応するが、そうでなければ、両者は対応しない。

2.2 行為の方向を表す用法

行為の方向を表す例を見てみよう。

- (7) a 一张陌生的脸伸进门帘里来，向四周看了一下，自语道：“高师爷出去了。”这面庞也就不见了。
《家》
b 一人の見知らぬ顔が門簾から現われて、ちょっとあたりを(*に向かって/＊に向けて)見まわしたが、「高さんお出かけか」そうひとりごとをいって消えてしまった。
- (8) a 我找到了那个小洞，屏住气向外窥探。《CCL语料库》
b 私はその小穴を探し当て、息を殺して外を(*に向かって/＊に向けて)のぞき見た。
- (9) a 赵微土也向他挥手。《活动变人形》
b 趙微土も彼に(に向かって/に向けて)手を振った。
- (10) a 他板起脸儿，向好几个递过钱来的小伙子摇头：“没有。”《轱辘把胡同9号》
b 彼は仏頂面で、金をさし出す若者たちに(に向かって/に向けて)首を振った。
「ないよ!」
- (11) a “向毛主席保证，真是家访。”《插队的故事》
b 「毛主席に(*に向かって/＊に向けて)誓って本当に家庭訪問だよ」
- (12) a 带路的工人又向这一队农民介绍说：《金光大道》
b 案内してくれている労働者が農民の一行に(に向かって/に向けて)紹介した
- (13) a 你来得正好，我正想向你这样的内行请教。《钟鼓楼》
b 本当にいいところへ来てくれた。君のような専門家に(*に向かって/＊に向けて)教えてもらおうと思っていたんだがね。

上記の例に示すように、「向」は「～に向かって」、「～に向けて」に対応する場合もあれば、対応しない場合もある。

(7a) (8a) における述語はそれぞれ“看”(見る)、“窥探”(のぞき見る)であり、いずれも「見る」型の動詞である。中国語では、「見る」方向を“向”で導くことができるが、日本語では、「見る」方向は対象と見なされ、格助詞「を」でしか提示できない。この場合、“向”は「～に向かって」にも、「～に向けて」にも対応しない。

(9a) ~ (12a) における述語は“挥手”(手を振る)、“摇头”(首を振る)のような振る舞いを表す動詞か、“保证”(誓う)、“介绍”(紹介する)のような言語活動を伴う動詞である。振る舞いや言語活動の向けられる方向は中国語では「見る」方向と同じように、“向”で導くことができる。この場合、“向”文では主体の移動を伴わず、“向”は行為者と対象との方向関係を提示するのである。この“向”のイメージ・スキーマは図4のように示すことができる。

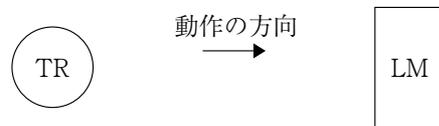


図4 行為の方向を表す“向”のイメージ・スキーマ

図4は“向”の中心的スキーマと異なっているが、両者の間には強い繋がりがある。前述のように、中心的イメージ・スキーマで示す“向”は「+方向性」と「+移動性」の特徴を持っているが、図4は「+方向性」の特徴だけであり、その中心的スキーマの一部だけ表している。したがって、図1と図4は全体と部分との関係であり、図4は図1の変換によるものと考えられるであろう。

振る舞いや言語活動の向けられる方向は中国語では、“向”などの介詞で導くのにに対し、日本語では、動作の間接目的語として、普通格助詞「に」で示すが、ときには、「～に向かって」、「～に向けて」などのような複合格助詞で提示することもできる。「に」と「～に向かって」の異同点について、盧濤 (1996) では『にむかって』は、話し手と聞き手が互いに顔を合わせている状態を示すのに対し、『に』は単に対象を導入する働きしかなく、その状態を描写することはできない」と述べている。つまり、普通の文脈では、「に」で行為の方向を提示するだけで十分であるが、相手と顔を合わせている状態をいきいきと表現するなら、「～に向かって」で提示するということである。このように、「～に向かって」は、行為者が対象と顔や体を合わせる意味特徴があるから、この「～に向かって」のイメージ・スキーマを図示すると以下ようになる。



図5 行為の方向を表す「～に向かって」のイメージ・スキーマ

行為の方向を表す「向」と「～に向かって」の異同点は、図4と図5の比較でわかるように、行為者から対象へと動作を行う点では両者は共通するが、「～に向かって」はさらに相手と顔や体を合わせなければならないという条件がある。

(9)(10)(12)においては、文脈で行為者と対象と顔を合わせることが可能であるため、「～に向かって」を使っても差し支えない。一方、(11)は、「毛主席」と顔を合わせるといった状況にはない。その時代、「毛主席」は神様のような人物であるため、「毛主席」に誓うことが非常に信用できるということになる。従って、この行為の方向を中国語では「向」で示すことができるが、日本語では相手と顔を合わせる前提をもつ「～に向かって」は使用できない。

前に述べているように、「～に向かって」は相手と顔を合わせるとともに、それなりの描写性がある。しかし、文脈からわかるように、(13)では、何も描写性は感じられない。というより、あれば逆におかしく思われるので、「～に向かって」は使えない。

次に、行為の方向を表す「～に向けて」を見ていく。2.1節で述べたように、「～に向けて」はある既定性の高い目標(ランドマーク)をターゲットに、トラジェクターが何かの行為をすることを表すという意味特徴がある。行為の方向を表す場合でも、「～に向けて」はこの特徴をもっている。つまり、行為の方向は既定性の高い「点」として捉えられ、特別に取り立てられるニュアンスが入っている。

- (14) a 他站在黄梅霜和李槐英的当中没等其他人口, 突然向李槐英把大拇指一伸, 啧啧称羡地笑道: 《青春之歌》
b かれは黄梅霜と李槐英のあいだにわりこんでくると、ほかの者のことばもまたずに、とつぜん、李槐英に向けて、親指をつきたてた。『青春の歌』

(14)では、「李槐英」が「黄梅霜」と「李槐英」二人の中から選ばれるため、既定性の高い点として捉えられ、特別に取り立てられるというニュアンスがある。「～に向けて」のイメージ・スキーマはその中心的スキーマと一致しており、図3と同じように示すことができる。

こうして、行為の方向は既定性の高い「点」として特別に取り立てる場合、「向」と「～に向けて」とは対応するが、そうでなければ、両者は対応しない。

さらに、以下のような「～に向けて」文もある。

- (19) a リクルートは、これまで常に二十代、三十代という若い層に向けて情報を送ってきたが、今後この層はどんどん減る傾向にある。
b 艾杰飞公司以前以二三十岁的年轻人对象, 给他们提供信息, 但今后这个阶层的人员有逐渐减少的趋势。
(20) 間もなく、茶の間にに向けて「宇宙人は解剖されて

いた」というショッキングなタイトルのもとに、テレビ放送された。

(19)(20)における「若い層」と「茶の間」は特別な対象として捉えられている。工藤嘉名子(2005)では、「～に向けて」文では、行為が向けられる先にある〈人〉〈もの〉〈場所〉は、主体の行為の〈受け入れ先〉、即ち〈対象〉として想定されとしている。したがって、(19)では「二十代、三十代という若い層」は行為の方向であるとともに、情報の受け入れ先としても認められる。(20)も同じように解釈できる。それに対し、中国語では、この受け入れ先としての対象は「向」ではなく、(19b)のように、「以……为对象」や「面向」などの形で表すので、両者は対応しない。

以上の内容をまとめると、以下のようになる。

- ①「見る」方向を表すとき、「向」は「～に向かって」, 「～に向けて」に対応しない。
②行為者と対象と向き合う、かつ場面性が必要であるとき、「向」は「～に向かって」に対応するが、そうでないとき、両者は対応しない。
③行為の方向は既定性の高い「点」として特別に取り立てる場合、「向」と「～に向けて」は基本的に対応するが、行為の受け入れ先とする意味合いが強いつき、両者は対応しない。

2.3 行為の目標を表す用法

以下の例を見よう。

- (21) a 城乡人民文化生活进一步丰富, 生活质量得到提高, 正在向小康目标前进。《人大报告96》
b 都市・農村人民の文化面の生活はより豊かなものとなり、生活も質的に向上し、目下、まずまずの生活水準という目標に向かって(に向けて)前進している。
(22) a 今日's 包钢人, 正昂首阔步, 向新的目标前进。《CCL语料库》
b 今日の「包鋼人」は、何ものも恐れず、新しい目標に向かって(に向けて)進んでいる。
(23) a 邓小平“用非凡的能力战胜了政治上的三起三落和无数阴谋诡计, 并且每次都向他生命的目标更接近一步。《我的父亲邓小平》
b 鄧小平は「非凡な能力で、一度の失脚と無数の陰謀に打ち勝ち、そのたびにライフワークともいふべき目標に(に向かって/に向けて)一歩ずつ近づいていった。
(24) a 正当她努力地提高自己的修养, 向蕴藉含蓄的境界努力时, “文化大革命”开始了《钟鼓楼》
b 彼女が修養にはげみ、含蓄のある演技という境地に向かって(に向けて)努力していた矢先に、「文化大革命」がはじまった。
(25) a 然而, 正当李成一夫妇满怀希望向理想的彼岸奋力拼搏时, 不幸又一次降临到他们身上。《CCL语料

庫》

b しかし、李成一夫婦が期待に胸をふくらませながら理想の対岸に向かって（に向けて）必死に頑張っているとき、不幸は再び訪れた。

(21)~(23)では、述語が“前進”（前進する），“接近”（近づく）のような移動動詞であるが，“向”の参与する事件は現実的な移動を伴っていない。たとえば、そもそも“前進”（前進する）は「前へ進む」という意味であるが、ここでは、「事物が発展していく」といった意味になる。“接近”（近づく）はもともとある場所にだんだん接近するという意味であるが、ここでは、空間的な距離ではなく、心理的な距離を指す。この場合、メタファーにより、動詞の意味が拡張するとともに、“向”の用法も「移動の方向」から「行為の目標」へと拡張することになる。こうして、元の空間的な移動を表す動詞は現実的な移動ではなく、抽象的な意味に発展していくが、移動動詞の動的な意味合いはまだ残っている。

(24)(25)における述語は“努力”（努力する），“拼搏”（頑張る）であり、移動動詞ではないが、いずれも時間が経つにつれすこしずつ進んで目標にだんだん近づくというニュアンスをもっている。この点では、移動動詞と似たイメージがあると言えよう。

このメタファーによる意味・用法の拡張は“向”も「～に向かって」も共通している。つまり、“向”と「～に向かって」ともメタファーにより、移動の方向を表す用法から、行為の目標を表す用法へと拡張したわけである。それでは、両者の間にどのような異同点があるのでしょうか。

上の説明からわかるように、両者のそれぞれと共起する述語はかなり似通っている。“向”，「～に向かって」に続く名詞は、(21)~(25)を見てわかるように、いずれも目標の意味合いが読み取れる。「～に向かって」と共起する述語と名詞について、工藤嘉名子（2005：41）は、『～にむかって』には〈目標〉を示す名詞にも、行為を表す述部にも具体性が欠如している…『～にむかって』の場合、『目標』『夢』『将来の自分』『明日』といった語句によって〈目標〉という意味合いを得ているのが特徴である。また、述部も『頑張る』『努力する』『しっかりやる』のように、具体的な動作ではなく意気込を表す動詞が続くことが多い」と述べている。具体的な例を観察すると、共起する名詞も述語も、介詞“向”はこの「～に向かって」とかなり対応している。

そもそも方向指示が“向”の原型的な機能であるが、行為の目標を示す時、“向”は「進行中」の文脈で使われることが多い。「進行中」の文脈と一緒に使うことにより、“向”は目標にだんだん近づくイメージが生まれてきたので、「～に向かって」と同じニュアンスになる。この場合、“向”と「～に向かって」のイメージ・スキーマはそれぞれの中心的スキーマと一致している。

次に、「～に向けて」を見ていく。すでに述べている

ように、「～に向けて」はある既定性の高い目標をターゲットに、トラジェクターが何かの行為をすることを表す。この「行為の目標」を表す用法は「～に向けて」の中心的な用法と言えよう。

(21)~(25)においては、介詞“向”を「～に向けて」に翻訳することができるが、特別な状況でない、この対応関係は成り立たない。つまり、“向”の提示する目標は点として特別に取り立てられる場合に限り、両者は対応するが、そうでなければ、対応しない。たとえば、(21a)では、文脈からわかるように、焦点は文末の動詞“前進”（前進する）にあり、“小康目標”（まずまずの生活水準という目標）は特別に取り立てられていないから、日本語の「～に向けて」を使う訳文は適切ではない。逆に、“小康目標”（まずまずの生活水準という目標）は他ではなく、これだという対比焦点となると、「～に向けて」の訳文は適用になる。

さらに、「～に向けて」は以下のような使い方もある。

- (26) a 1992年6月にブラジルで開かれた地球サミット（国連環境開発会議）でCO₂排出規制問題が取り上げられ、21世紀に向けてCO₂削減に取り組むことになった。（『日本経済の飛躍的な発展』）
b 1992年6月在巴西召开的地球问题最高级会议（联合国环境开发会议）上，限制排放二氧化碳的问题被提上议程，并对到21世纪削减二氧化碳的排放量作了讨论。
- (27) a 生徒たちは、このふたつに向けて猛練習&居残り作成などをする。（《五体不満足》）
b 对于同学们来说，无非就是集中练习演唱，突击创作而已，单调乏味，死气沉沉。

(26)(27)でも、「～に向けて」は行為の目標を表す。興味深いのは、「～に向けて」に後続する名詞は「21世紀」や「このふたつ」のようなそもそも目標の意味合いを持たない名詞である。そして、「～に向けて」の述語は「頑張る」、「努力する」のような意気込みを表す動詞に限らず、普通の動作動詞でもある。この「～に向けて」と共起する名詞と述語が“向”と異なっているから、中国語の“向”文に翻訳することはできない。「～に向けて」の例をさらに見ていこう。

- (28) このあと、新聞連載開始の十二月九日に向けて、綾子は書き直しに努力することになる。
- (29) 美大リーグ戦に向けて主将やコーチと相談してトレーニングメニューを作ることから始まり、練習試合のスケジュール調整、交渉、お弁当の手配、薬品の準備、レモンや水の運搬。
- (30) 高等部へ進学してから部長の大沼みゆきという新たないじわる役が登場し、共同標的打倒に向けて手を組んだ。

上の例では、「～に向けて」に続く名詞はそれぞれ

「新聞連載開始の十二月九日」のような「期日」や「美大リーグ戦」のような「出来事」、そして「共同標的打倒」のような「到達点」を表す名詞である。「～に向けて」と共起する述語は意気込みを表す「努力する」もあれば、「相談する」、「作る」などのような具体性を持つ動詞もある。この「～に向けて」の用法について、工藤嘉名子（2005：41）では、「既定の目標」として、「出来事」「期日」「到達点」を表す名詞が来るが、いずれも時間軸上に設定できるものでなければならない…（中略）…『～にむけて』の場合は、時間軸上に「目標」を掲げているだけで、述部を既定しないとされている。この点では、「～に向けて」の使用範囲は“向”よりずいぶん広いといえよう。

以上の考察からわかるように、行為の目標を表す時、“向”も「～に向かって」も目標への接近を表すから、両者は対応する。それに対し、「～に向けて」は既定性の高い目標を取り立てるが、目標への接近を表さないから、“向”とは対応しない。

2.4 変化の方向

変化の方向を表す例を見ていこう。

- (31) a 世界将走向进步, 决不是走向反动。
b 世界は進歩にむかって（*に向けて）すすむのであり、けっして反动にむかって（*に向けて）すすむのではない。
- (32) a 中原戦局已逐步走向稳定。
b 中原の戦局は次第に安定に向かって（*に向けて）進んでいる。
- (33) a 当前, 世界仍处在复杂而深刻的变化之中。国际形势总体趋向缓和, 世界加快向多极化发展, 新的格局日渐明朗。
b 当面, 世界はなお複雑かつ深刻な変化のなかにある。国際情勢は全般的には緩和に向かって（*に向けて）進んでおり, 世界は多極化への発展を速め, 新たな枠組みが日増しに明らかになってきている。
- (34) a 70年代末, 中国实行开放政策后, 计划经济向市场经济转变。
b 七十年代末, 中国では改革開放政策が実施されることになって, 計画経済から市場経済に（*に向かって／*に向けて）転換した。
- (35) a 他从小受到父母的良好教育, 起初喜对历史和考古, 后来转向理科。
b 彼は小さいころから両親から良好な教育を受け, 最初は歴史と考古学が好きだったが, のちには理系に（*に向かって／*に向けて）転じた。

(31)～(35)を見てわかるように、介詞“向”と共起する述語は“走”（進む），“趋”（進む），“转变”（転換する），“转”（転じる）などの動詞であり，“向”は単音節動詞の直後に位置することが多い。しかも，“向”は(31)～(33)

に示すように、同じ方向への変化も(33)(34)のように違う方向への変化をも表すことができる。同じ方向への変化を表す時、“向”のイメージ・スキーマは中心的スキーマと一致するが、違う方向への変化を表す時、“向”のイメージ・スキーマはすこし変わる。

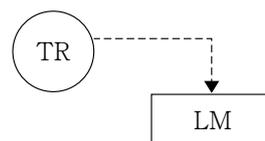


図6 違う方向への変化を表す“向”のイメージ・スキーマ

図6に示すように、違う方向への変化を表すとき、変化の軌跡は直線ではなく、角度のある線となる。なぜなら、“向”の中心的な機能はほかでもなく、方向指示にあるからである。したがって、同じ方向にせよ、違う方向にせよ、“向”は一切問わない。

それに対し、上の例に示すように、「～に向かって」は同じ方向への変化しか表すことができない。その理由は「～に向かって」の意味特徴からわかる。「～に向かって」は、ある一方向あるいは一方向に拡張した物体に対して、トラジェクターが一方の側からもう一方の側へと直線に進むことを表すため、変化の方向が同じでなければ、「～に向かって」の使用は不可能となる。そして、「～に向かって」の例には以下のようなものもある。

- (36) 春に向かって暖かくなってきた。
(37) 軽井沢の十月。冬に向かって自然が朽ち始める瞬間の、もっとも美しい季節。
(38) 赤字路線廃止, 人員整理…分割・民営化に向かって状況が緊迫する82年, 旧鹿児島鉄道管理局で人事課に所属した。（朝日新聞）

上の例では、「～に向かって」に先行する名詞は「春」、「冬」のような季節を表す名詞や将来の状況を表す名詞である。(36)においては、春に近づくにつれ、天気はだんだん暖かくなるという意味になり、「～に向かって」により、春になるプロセスがいきいきと描かれている。(38)でも、状況変化のプロセスの場面性が出る。

それに対し、同じ方向への変化を表すとき、“向”に続く名詞は形容詞的な名詞や動名詞が多い。形容詞的な名詞の場合、“向”はある性質・状態から他の性質・状態へ変化していくことを表すが、動名詞の場合、動作発生前の状態から、発生後の状態に変化する意味になる。

“向”と「～に向かって」の異同点についてまとめておく。

- ① “向”は同じ方向への変化も、違う方向への変化も表すことができるが、「～に向かって」は同じ方向への変化しか表すことはできない。
② 同じ方向への変化を表す時、“向”に続く名詞は形容詞的な名詞や動名詞が多いが、「～に向かって」には

その制限はなく、季節名詞などの将来の状況を表す名詞が「～に向かって」の前に来る。

- ③“向”は方向だけ示すのに対し、「～に向かって」は将来の状況へ変化するプロセスも伴う。

「～に向けて」に関しては、以上の例からわかるように、「～に向けて」は変化の方向を示すことはできない。普通、変化と言えば、自然の流れにより、ある状況からほかの状況に変わることを指す。しかし、「～に向けて」は意図性が強い。以上の例では、「～に向けて」が使えるとしても、人の意志による動作と強く感じられるから、「変化」とは言えない。したがって、変化の方向を表す“向”は「～に向けて」に対応しない。

2.5 空間的配置の方向

まず、以下の例を見ていこう。

- (39) a 被碌碌压倒高粱闪出来的公路轮廓, 一直向北延伸。
《红高粱》
b ローラーが高粱をつぶした後に現れた公路の輪郭が、まっすぐ北へ(に向かって/に向けて)伸びていた。
- (40) a 弯曲的土路通向远处一个村落。《插队的故事》
b 曲がりくねった土の道は遠くの村に(に向かって/に向けて)続いていた。

(39)(40)における述語動詞は“延伸”(延びる)、“通”(続く)であり、移動動詞ではあるが、主語は実際に移動するわけではない。この場合、主語で表されている物体の位置・範囲などが移動動詞を用いて表現されている。田中・松本(1997)では、このような表現を範囲占有経路表現と称し、さらに範囲占有経路表現を以下の3種類に分けている。

- ①特定の具体物の現実的の移動(現実移動)
a. The road went up the hill as we proceeded.
b. 私たちが進んでいくにつれて、その道は丘を登って行った。
- ②任意の具体物の仮想の移動(仮想移動)
a. The highway enters California here.
b. そのハイウェイはそこでカリフォルニアに入る。
- ③視点の移動(視点移動)
a. The mountain range goes from Canada to Mexico.
b. その山脈はカナダからメキシコへ至る。

(39)(40)は、いずれも③視点移動に当てはまる。この場合、現実的な移動に係わらず、空間的位置関係を表す。このような空間的配置の方向を表す“向”のイメージ・スキーマは図7のように示すことができる。



図7 空間的配置の方向を表す“向”のイメージ・スキーマ

この“向”を格助詞「へ」に翻訳する場合も多い。移動の方向を表す場合と同じように、単なる方向を表すとき「へ」では十分であるが、延びている状態を表現するとき、描写性のある「～に向かって」のほうがいきいきとなる。「～に向かって」のイメージ・スキーマは“向”とかなり一致しており、図7と同じように図示できる。

以上の説明からわかるように、物体の伸びている状態をいきいき表現するとき、“向”は「～に向かって」に対応するが、そうでないとき、両者は対応しない。

「～に向けて」も空間的配置の方向を表すこともできるが、ニュアンスは“向”と違う。前述のように、「～に向けて」は既定性の高い「点」に焦点を当てるので、空間的配置の方向を表す時、物体の伸びている状態より、「～に向けて」は伸びる方向に焦点を置く。したがって、伸びる方向を取り立てるときだけ、「～に向けて」を使用するのである。この「～に向けて」のイメージ・スキーマは図8で示すことができる。

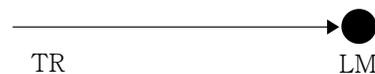


図8 伸びる方向を表す「～に向けて」のイメージ・スキーマ

ゆえに、伸びる方向を取り立てる場合、“向”は「～に向けて」に対応するが、そうでなければ、両者は対応しない。

伸びる方向のほかに、「～に向かって」と「～に向けて」には以下の用法もある。

- (41) a ある個室が共通の場に一時的に開放されたりする。さらに、共通の場はソトに向かっても大きく開かれている。(『適応の条件』)
b 个人房间有时还会成为对公共场所开放的地方, 而公用场所对外也是开放的。(《适应的条件》)
- (42) a 無人の8号室と、その隣のバスルーム、そして封印をしてあった筈の9号室を除く、あらゆる部屋の扉が、廊下に向けて開いていた。
b 除无人的8号室, 其隔壁的浴室和应该贴了封条的9号室以外, 所有房间的門都朝/对着走廊开着。(筆者による訳)
- (43) 海に向かって (に向けて), 十数門の大砲がならんでいた。
- (44) 見るとそこには窓に向かって (に向けて) 一台の望遠鏡がすえてあるのだ。

(41)~(44)では、「～に向かって」、「～に向けて」で示すのは伸びる方向ではなく、向き合う方向である。静止状態の位置関係を表すので、述語となる動詞はテイル形やテアル形で現れることが多い。この場合、行為の

方向を示す用法と同じように、主体と対象とは向き合う位置関係であるから、「～に向かって」、「～に向けて」のイメージ・スキーマはそれぞれ以下のように示すことができる。



図9 向き合う方向を表す「～に向かって」のイメージ・スキーマ



図10 向き合う方向を表す「～に向けて」のイメージ・スキーマ

一方、現代語では、介詞“向”に向き合う方向を示す用法はない。「～に向かって」、「～に向けて」は“対着”、“朝”、“対”などに対応するが、“向”とは対応し

ない。

2.5節の内容をまとめてみると、以下のようになる。

- ①空間的配置の方向を表す介詞“向”は伸びる方向しか表さないが、「～に向かって」も「～に向けて」も伸びる方向と向き合う方向の両方の使い方があるから、向き合う方向を表す時、「～に向かって」、「～に向けて」は“向”に対応しない。
- ②伸びる方向を表す時、物体の伸びている状態をいきいき表現すれば、“向”は「～に向かって」に対応するが、そうでなければ、両者は対応しない。
- ③伸びる方向を表す時、伸びる方向を取り立てる場合、“向”は「～に向けて」に対応するが、そうでなければ、両者は対応しない。

3. 終わりに

本稿では、中国語の介詞“向”と日本語の複合格助詞「～に向かって」、「～に向けて」との対応関係について考察を加えた。その結果、以下のような対応関係が見られる。

表Ⅲ “向”と「～に向かって」,「～に向けて」との対応関係

	“向”と「～に向かって」	“向”と「～に向けて」
移動の方向	移動中のプロセスの場面性があるとき、“向”は「～に向かって」と対応するが、そうでないとき、両者は対応しない。	移動の方向が特別に取り立てられ、かつ意図性のある文脈では、“向”は「～に向けて」に対応するが、そうでなければ、両者は対応しない。
行為の方向	①「見る」方向を表すとき、“向”は「～に向かって」に対応しない。 ②行為者と対象と向き合う、かつ場面性が必要であるとき、“向”は「～に向かって」に対応するが、そうでないとき、両者は対応しない。	①「見る」方向を表すとき、“向”は「～に向けて」に対応しない。 ②行為の方向は既定性の高い「点」として特別に取り立てる場合、“向”と「～に向けて」は基本的に対応するが、行為の受け入れ先とする意味合いが強いつき、両者は対応しない。
目標の方向	“向”も「～に向かって」も目標への接近を表すから、両者は対応する。	「～に向けて」は既定性の高い目標を取り立てるが、目標への接近を表さないから、“向”とは対応しない。
変化の方向	①“向”は同じ方向への変化も、違う方向への変化も表すことができるが、「～に向かって」は同じ方向への変化しか表すことはできない。 ②同じ方向への変化を表す時、“向”に続く名詞は形容詞的な名詞や動名詞が多いが、「～に向かって」はそれの制限がなく、季節名詞などの将来の状況を表す名詞が「～に向かって」の前に来る。 ③“向”は方向だけ示すのに対し、「～に向かって」は将来の状況へ変化するプロセスも伴う。	「～に向けて」は変化の方向を表す用法がないから、“向”に対応しない。
空間的配置の方向	①“向”は伸びる方向しか表さないが、「～に向かって」は伸びる方向と向き合う方向の両方の使い方があるから、向き合う方向を表す時、「～に向かって」は“向”に対応しない。 ②伸びる方向を表す時、物体の伸びている状態をいきいき表現すれば、“向”は「～に向かって」に対応するが、そうでなければ、両者は対応しない。	①“向”は伸びる方向しか表さないが、「～に向けて」は伸びる方向と向き合う方向の両方の使い方があるから、向き合う方向を表す時、「～に向けて」は“向”に対応しない。 ②伸びる方向を表す時、伸びる方向を取り立てる場合、“向”は「～に向けて」に対応するが、そうでなければ、両者は対応しない。

以上の考察からわかるように，“向”の機能は方向指示に過ぎない。「～に向かって」はプロセスか対面関係を強調する。「～に向けて」の中心的な働きは既定性の高い「点」を提示することにある。

注

- (1) 本稿では、中国語の例は《北京大学汉语语言学研究中心语料库》（「CCLコーパス」）から取り出し、日本語の例は『角川文庫』（572作品）から取り出し、そして中日対訳の文は「中日対訳コーパス」から取り出した。（ ）の中にある訳文はすべて筆者によるものである。
- (2) ここのA、Bはそれぞれ「Aに+向けて（の）+B」という文型におけるA、Bを指す。
- (3) “向”とほかの方向を表す介詞との使い分けについてここでは検討しないことにする。別稿に譲らざるを得ない。
- (4) 詳細は盧涛（1996）を参照されたい。
- (5) 中国語では、文末以外の要素に強調ストレスを加えることにより、他の同類事物と比することができる。詳細については、徐烈炯・刘丹青（2007）を参照されたい。

参考文献：

- 泉原省二（2007），『日本語類似表現使い分け辞典』，研究社。
- 井上優（1988），「目標を表す『～にむかって』『～にむけて』」，『日本語研究』(10)，17-26。
- 工藤嘉名子（2005），「『～にむかって』『～にむけて』『～をめざして』の意味・用法」，『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』(31)，31-45。
- グループ・ジャマシイ編著（1998），『日本語文型辞典』，くろしお出版。
- 小高愛（2000），「『むかう』と『むかって』—動詞から後置詞へ—」，『千葉大学留学生センター紀要第6号』，33-52。
- 田中茂範・松本曜（1997），『空間と移動の表現』，研究社出版。
- 張麟声（2001），『日本語教育のための誤用分析—中国

語話者の母語干渉20例—』，スリーエーネットワーク・方美麗（2003），「方向の結びつき—日中対照分析」，『外国語教育論集』(25)，175-185。

馬小兵（2009），「方向を表す複合助詞について—『に対して』『にむかって』『にむけて』を中心に」，『筑波日本語研究』(14)，19-34。

松本曜（2003），『認知意味論』大修館書店。

盧涛（1995），「『むかう』と『むける』の文法化について」，『帝塚山論集』(83)，41-60。

盧涛（1996），「中国語における『空間動詞』の文法化研究—日本語と英語との関連で—」，神戸大学大学院文化科学研究科博士課程論文。

何薇（2006），対象類介詞“向”的分析与教学，《湖北社会科学》2006年12期，132-135。

柯润兰（2003），介词“向”的句法语义考察，北京语言大学硕士论文。

李桂梅（2009），“向”的目标指向图式和“往”的空间定位图式——汉语介词“向”和“往”的区别探析，渤海大学学报（哲学社会科学版）2009年02期，124-131。

北京大学中文系1955级，1957级语言班编（1982），《现代汉语虚词例释》，商务印书馆。

侯学超（1998），《现代汉语虚词词典》，北京大学出版社。

傅雨贤他（1997），《现代汉语介词研究》，中山大学出版社。

刘月华他（1983），《实用现代汉语语法》，外语教学与研究出版社。

吕叔湘（1980），《现代汉语八百词》，商务出版社。

徐烈炯・刘丹青（2007），《话题的结构与功能》，上海教育出版社。

謝辞：本稿は、2011年8月天津外国語大学で開催された2011世界日本語教育研究大会にて発表したものに加筆・修正を加えたものである。執筆にあたり、指導教官の佐藤暢治先生から貴重なご教示を賜りました。記して、深甚なる謝意を表したいと思います。また、発表の際、有益な助言をくださった先生方々にも心から御礼を申し上げます。なお、本稿の不備はすべて筆者の責に帰します。

Abstract

A Study on the Chinese Preposition “xiang” and the Japanese Compound Case Particles “-nimukatte” “-nimukete”

Pei LI

Ph.D student, Graduate School for International Development and Cooperation, HIROSHIMA University,

1-5-1 Kagamiyama, Higashi-Hiroshima, Hiroshima, 739-8529, Japan

E-mail: samerily@163.com

This paper discusses the differences between the Chinese preposition “xiang” and the Japanese compound case particles “-nimukatte” “-nimukete”. The paper divides the usage of “xiang” “-nimukatte” “-nimukete” into five categories, namely direction of moving, direction of act, target of act, direction of change, and direction of positioning in space. It applies principles of cognitive linguistics to analyze the image scheme of them. Their semantic features could be generalized as follows:

“Xiang” only serves to indicate direction. In contrast, “-nimukatte” places emphasis on the move or the situation where two things facing each other, and “-nimukete” highlights the clear target, while both indicate direction.